

令和7年7月に策定した「福井空港ビル再整備構想」に基づき、防災の拠点空港、観光・ビジネス利用に対応できる空港、地域住民に親しまれる空港を目指した機能強化・再整備を行う。

1. 福井空港が目指す姿

(1) 県民の安全・安心を守る防災の拠点空港

- 方針1 エプロンの耐震化等により、災害に強い福井空港を実現
- 方針2 大規模災害時における航空医療搬送や、災害対応参集者および物資の受入れに対応できる機能を強化

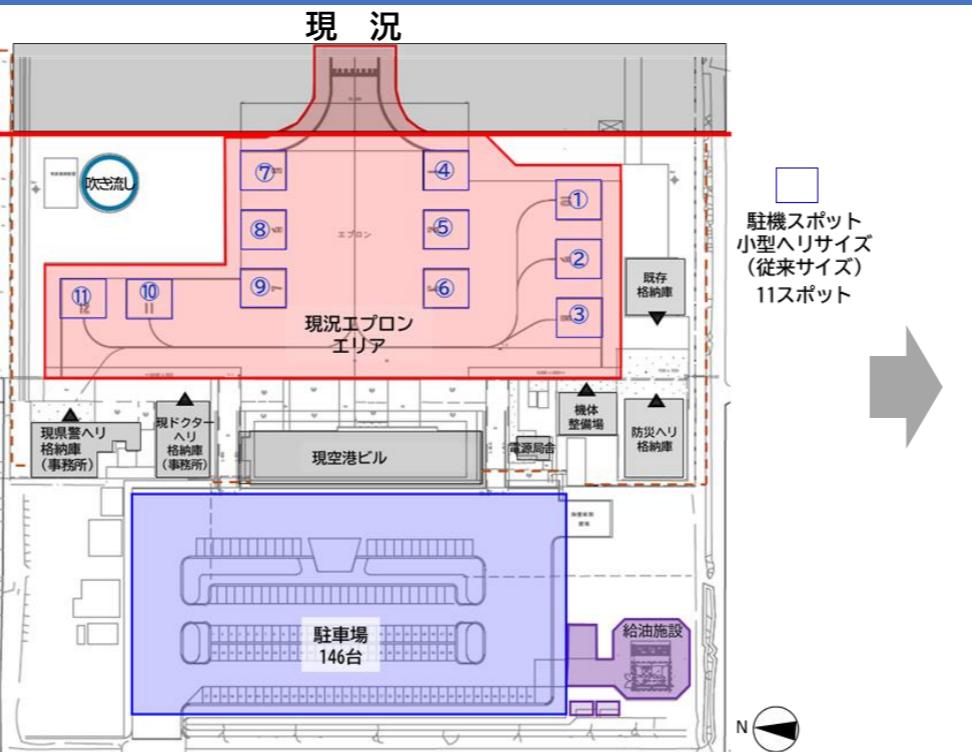
(2) 観光・ビジネス利用ニーズにきめ細かな対応ができる空港

- 方針1 プライベートジェット機による観光利用促進
- 方針2 新たな取組みにもチャレンジできる施設整備
- 方針3 空港および場外離着陸場をヘリ観光の活動拠点化

(3) 次世代を育み、地域住民に親しまれる空港

- 方針1 次世代航空人材育成への貢献
- 方針2 地域住民や子どもたちが先端技術や空港に親しむことができる場づくり

2. 空港全体の整備方針



3. 新空港ビルの整備方針

拡充・追加（目指す姿を実現する機能）

- ① 防災の拠点機能（防災機能）
- ② 観光・ビジネス利用に対応できる機能（ターミナル機能）
- ③ 人材育成や地域住民の活動に利用できる機能（地域利用機能）

必要面積を確保

- ④ 空港の管理・運営機能（管理機能）
- ⑤ 空港運営を支える機能（関連業務機能）

□ 拡充・追加する部分

室名等	現空港ビル		新空港ビル	
	面積	面積	整備方針	
1F ロビー 【防災】DMATによる医療活動拠点スペース 【ターミナル】チャーター便等乗降ロビー・保安検査、待合 【地域利用】展示や地域活動等	552.5m ²	現ビルの約1.5倍 〔防災機能 ターミナル機能 地域利用機能〕	約850m ²	<ul style="list-style-type: none"> DMATが要医療患者15人程度に対応可能な面積・空間を確保 エプロン～駐車場間にバリアフリーな動線確保 可動間仕切りにより乗降ロビーや保安検査等に対応 多様な展示やイベント等に対応できる広く明るい空間確保 ロビー近傍に無柱の大会議室を確保。臨機応変な利用のため可動間仕切りを設置 共有の小会議室等を追加
多目的スペース（共有会議室等） 【防災】災害時の指揮調整所、個別指揮所 【地域利用】資格取得用講義室、地域活動等				<ul style="list-style-type: none"> 応援ヘリパイロットの休憩スペースを確保 プライバシーが確保された待合室と専用動線を確保
休憩室、待合室 【防災】災害時応援ヘリパイロット・隊員休憩室 【ターミナル】プライベートジェット利用者休憩室、パイロット休憩室				<ul style="list-style-type: none"> 必要な面積を確保 更衣室やトイレ拡充（女性用含む） 居心地に配慮した展望デッキを屋上等に確保
DMAT用倉庫 【防災】医療器具等資材倉庫				
防災航空隊事務室 【防災】事務所、宿直室等				
展望デッキ 【地域利用】展望、活動スペース				
管理事務室・消防 【管理】空港管理・運営事務室、消防棟	1,034.5m ²	現ビルと同程度 〔管理機能 関連業務機能〕	約930m ²	<ul style="list-style-type: none"> 実情に合わせて必要面積を確保
事業者貸部屋 【関連業務】給油、整備、ヘリ運航、小型機パイロット団体、研究等				
その他共用部（トイレ、廊下、電気室、倉庫等）				
合計	1,587m ²		約1,800m ²	

4. 概算事業費

約50億円

5. スケジュール（予定）

整備内容	令和7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
新空港ビル建設 (約1,800m ²)	基本設計 (9月補正)	基本設計 実施設計	建設工事	建設工事	供用開始
駐車場整備	基本設計 (9月補正)	基本設計 実施設計		整備工事	
旧空港ビル解体				設計	解体工事
エプロン整備 (約13,000m ²)	地質調査 (当初)	基本設計 実施設計	拡張(1) 整備工事 ※	既存部 整備工事	拡張(2) 整備工事
給油施設増設				整備工事	

※エプロンの北東側のエプロン拡張（1）について、先行実施し、防災機能強化の早期発現を図る。